

所 報

第 4 1 号 2000年 7 月発行
発 行 人 津嘉山 朝 祥
発 行 所 沖縄県立教育センター
〒904 2174 沖縄県沖縄市字与儀587番地
電 話 0 9 8 - 9 3 3 - 7 5 5 5
F A X 0 9 8 - 9 3 3 - 3 2 3 3

『交流は議論から始まる』

所長 津嘉山 朝祥



私どもは、他者との議論がどうもじっくりいかない感じがいつもつきまとっている。

公の場で自分の言い分を通そうとすると「そこまで言わなくても」、「相手をやり込め

てまでは」等々と、ことさら他者に反論して角を立てることを避け、安易に相槌を打ち、相手の意見、主張を否定或いは疑うような表現は極力避けようとする心理が自ずと生じ、それを敢えて行う人間は「頑固者」「ヘソ曲がり」「変わり者」等として集団から異端視され、周囲からの冷たい視線を感じる羽目になることが大方であろう。なるべくお互いに妥協し、譲歩し、順応し、和合する文化的習性が体にしっかりと染みつき、議論をよしとしない風潮がある。

そのような視点から、去った6月24日(土)から25日(日)にかけて開催されたG8高校生サミットは興味津々たるものがあつた。特に「環境」「平和」「経済」の3分科での分科のまとめを受けての全大会での討議は実に興味深く拝聴させていただいた。

「対立は常である」という前提に立って、理論を組み立て、自分の意見をしっかりと主張し、反論に反論を重ねる中で解決への糸口を探る欧米の高校生諸君の議論に本県(九州等)の高校生諸君がどのような論陣を張るのか、わくわくしながら見入った次第である。

アメリカらしい授業実践の代表的一例として、「Show & Tell」がよく知られている。人前に立って、いかに自己実現するのかということをお大切な能力の一つとして小学校低学年から訓練され、一定の目的を達成するために、何をどう準備したらそれが相手に伝えられるか或いは共感が得られるか、

自分で工夫し、発表することを重視した教育に力が注がれている。

今回のG8高校生サミットの討議の場でも、各国の事情を色濃く反映し、「ビー・ディファレント」の教育を受けた者と「ビー・イコール」の教育を受けた者に、ディスカッションに望む姿勢、議論の手法等に歴然として差異があるように思えた。

常に相手を説き伏せ、納得させ、自分の主張を貫こうとする者、ややもすると他者が自分の理論を理解してくれるものと期待し、言葉少なめに語る者とのやりとりは今後の国際交流を考える上で示唆に富む機会となった。

討議の終盤にさしかかる頃になると、さすがに我が県の若者も要を得て、自分なりの思いをしっかりと相手に主張し、伝えようとする気概が感じられ、躍起になって反論を試みる姿は頼もしくさえ感じた。このような交流の場を数多く積み重ね、教育の手法に磨きをかけさえすれば、存分に人材は育ち得る、と前途の光明を見出す思いを深くした。

次代を担う若者達が若者らしい視点から意見を交換し、21世紀の世界像を展望し「ユース・サミット」の開催や「高校生グリーンデー」の創設、世界規模の「環境税」の導入等を盛り込んだ宣言文が採択された。

若者らしい豊かな感性と既成の枠にとらわれない創造的な思考、夢と希望に燃える若者たちの平和・共生のメッセージをここ沖縄から発信できた喜びと、21世紀に生きる若者たちへのすがすがしき思いと熱い期待を抱きつつコンベンションセンターを後にした。

沖縄の若者から、他者への厳しい問い掛けがなかった事を(やさしい?)を気かけながらも...

目 次

所長あいさつ	1
研究室だより	
【教育経営科】	
長期研修講座「特別講演会」の実施について	2
【教科研修課】	
教育センターにおける「国際理解教育」研修から	3
【情報処理教育課】	
「コンピュータ活用研修会」『教育情報衛星通信ネットワークが始動!』	4～5
【産業教育課】	
『産業教育課における生徒実習』	6～7
平成11年度教育センター刊行物一覧	8

長期研修講座「特別講演会」の実施

教育経営研修課

1 平成12年度前期「特別講演会」の内容

平成12年度前期の長期研修講座「特別講演会」は、教育センター講義室において、上智大学教授の加藤幸次先生を招聘して「教育の今日的課題：総合的な学習の考え方、進め方」の演題で実施しました。

実践事例を豊富に盛り込んだ講演は、受講者のみなさんから「とても良かった」との評価がありました。

そのアンケートの中から、「Webbingという技法が理解でき、総合的な学習に対して意欲が出てきた。また、テーマから課題にもっていくときに子ども達の課題なのか、教師の課題なのかという点で計画や組織をしっかりとしていなければいけないと思った。」「まさにタイムリーな講演であった。現在、学校で取り組んでいる総合的な学習に対する疑問がいくつか解決できた。」などとありました。

このような素晴らしい評価のある「特別講演会」を教育関係機関の多数のみなさんにも受講できたらと考えています。

しかし、事前に本庁、教育事務所、教育研究所などにファックス等の広報活動をしたにも関わらず、所外からの受講者は、約30名でした。

教育センターの全講座を一覧した「研修講座案内（前年度3月刊行）」を学校や教育関係機関等へ広報活動を通して、受講者が増えるようにすることが課題であります。

・ホワイトボードを使って説明する加藤先生

2 アンケートの集計結果（6月9日）

平成12年度前期参加者の75名がアンケートを提出する。

「今日的な教育課題に沿う内容か」の質問に約8割の受講者は、期待通りであると答えている。

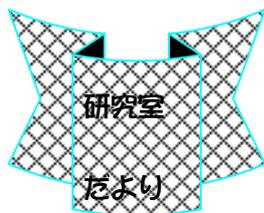
このことは、今回だけでなく、今までの特別講演会においても7～9割の割合で高い評価がでている。

3 特別講演会の講師一覧

年度	前期	後期
平成7年	北尾 倫彦 (京都教育大学)	坂本 昇一 (千葉大学)
8	河野 重男 (東京家政学院大学)	山極 隆 (富山大学)
9	児島 邦宏 (東京学芸大学)	高階 玲治 (国立教育研究所)
10	新富 康央 (佐賀大学)	安彦忠彦 (名古屋大学)
11	市川伸一 (東京大学)	上地 安昭 (兵庫教育大学)
12	加藤 幸次 (上智大学)	未定

以上のように著名な講師の先生方に来ていただきました。

これからも「特別講演会」は、理論だけでなく、実践例を多く講演内容に含むことを講師と交渉する予定です。最後に、平成12年度後期の「特別講演会」は、平成13年1月16日の予定です。多数のみなさんが参加されることをお願い申し上げます。



センターにおける「国際理解教育」研修

教科研修課【英語研究室】

国際化が急速に進む中で、より豊かによりたくましく生きていく資質がこれからの子供たちには求められています。そのニーズに応えるのが「国際理解教育」です。当センターでは、研修員に「国際理解教育」の理解を深めてもらうために、毎年、外国人学校視察や講演会等を企画しており、今年も実施しました。

まず、外国人学校視察ですが、去る5月16日、小学校の研修員のみなさんは嘉手納基地内のアメリカ・エア・ハート・インターミディエイト・スクール、中学校・高等学校の研修員のみなさんはカデナ・ハイスクールをそれぞれ訪問しました。

カデナ・ハイスクールではいろいろな形態の授業を見学してもらいましたが、最大の特徴は、何といても 教師と生徒の間の活発なやりとりでした。たとえば、下の写真はガーバメントというクラスの写真ですが、生徒たちに歴代の有名な大統領の名前をあげさせ、歴史に残るそれぞれの業績を発表させていました。先生の活発さもさることながら、生徒たちも積極的に発言していました。アメリカの教育の本質は自己表現だとよく言われますが、まさにそのことを痛感しました。



カデナ・ハイスクールは普通科目の他に職業科目も取り入れており、生徒たちが校舎の外に置かれた自動車を修理している姿も見ました。担当の先生にその授業の意義を聞いたところ、「車の修理ができたという達成感が、他の教科に向かう際の自信へとつながることです」と語ってくれました。つまり、一つの体験が次の学習への自信につながる、いわば体

験学習の核心をついた言葉だと言えます。現在、日本の教育界では「総合的な学習の時間」が注目されていますが、その面からすると、アメリカの教育は日本より進んでいるという感想を、この外国人学校視察を通じて多くの研修員がもったようです。

また、6月13日には、沖縄キリスト教短期大学助教授のクレイグ・ジェイコブソン先生をお招きし



て「アイデンティティー国や違いを越えて」というタイトルで講演してもらいました。いろいろ示唆に富む話を拝聴することができましたが、特に、「異文化理解」という日本語の表現への疑問はたいへん考えさせられるものがありました。

日本語ではよく「異なる」という字を使います。しかし、英語では「Different」という単語を使わずに、「Cross-Cultural Understanding」と表現します。「国際理解教育」で大事なのは、「異なること」を強調するのではなく、文化をクロスすることによって「共通するもの」を見出すことだということを認識させられました。その他、国際社会の中で生きる上で参考になるサジェスションを多くいただきました。

これらの研修を踏まえ、研修員のみなさんが「国際理解教育」の内容をさらに深めていくものと期待しています。

コンピュータ活用研修会

充実した2週間、たくさんの収穫がありました

情報処理教育課
主事：安和守光

6月5日(月)～6月17日(土)までの2週間、小学校の教師を対象とした、コンピュータ活用研修会を開催しました。今回は初めての試みとして、できるだけ多くの方が参加できるように、勤務時間終了後の午後5時30分～午後8時30分(土曜日は午後2時から午後5時まで)の3時間を研修の時間として設定しました。短い募集期間のなかでしたが、20市町村56の小学校からたくさんの応募

がありました。その中から、1クラス35名の2クラス(計70名)で研修会がスタートしました。

北は名護市から南は糸満市という広い地域からの参加でしたが、昼間の疲れもものともせず、本当に熱心に研修を受けられている先生方の姿が印象的でした。以下は研修会の内容と参加された方の感想の一端です。

Aコース

- コンピュータの基本操作及びWindowsの基礎
- Wordでの文書作成入門
- インターネットの入門
- 情報モラル、著作権、情報セキュリティ
- 情報化社会への対応

Bコース

- 表計算ソフト(Excel)入門
- プレゼンテーション入門(PowerPoint)
- インターネットの利用
- 情報モラル、著作権、情報セキュリティ
- 情報化社会への対応

感想

● いろいろと勉強になりました。これからもインターネットを積極的に活用し、子どもたちへもこの楽しさを伝えたいと思います。

楽しい。これだと教師も楽しいし、なおさら子供も楽しいだろうね。がんばろう。

● もう少し長い期間研修をしたいです。できたら3ヶ月間、今のペースでできたら自分のものになっていくんじゃないかな～と思いました。

● 内容が充実していました。パソコン教室に通っていましたが、もう、終了します。

後は自分でやれそうです。



Aコースの先生方は協力し合
ってがんばっています。



Bコースの先生方はマイペースで取り
こんでいます。

● 今までは無縁のものという感じで拒否反応を起こしていました。研修の機会を与えられてしびしび参加したのですが、不思議で目を見張ることばかりでした。本当にできるようになりたいと思うよ

うになりました。あれもしたい、これもしたいと夢が広がりました。

● 勤務校が糸満なので、通うのが少し負担でしたが、時間外にこんなに親切に楽しく教えていただいて、たいへん感謝しています。まだ、上手ではありませんが、パソコンに慣れて楽しくなったのは大きな収穫です。この研修を受けることができて良かったです。

教育情報衛星通信ネットワークが
始動しました！

6月15日(木)に沖縄県教育情報衛星通信ネットワークの始動式が行われました。これにより、沖縄県教育庁及び教育センターから衛星通信の送受信が

写 真

おこなえるようになりました。離島県である沖縄県では、これまで文部省及び国立教育会館等で行われる研修に参加するために、移動に多くの時間を費やし、研修旅費に多額の予算を費やした割には、少ない人数しか研修を受けることができず、タイムリーに情報を享受できなかったなど、情報格差の問題がありました。

今回の衛星通信による送受信装置の設置により、国立教育会館で行われる研修を地元でも受講できるようになり、より多くの先生方に充実した研修の機会を提供できるとともに、予算等の効果的な活用が図られるものと思われます。

教育センターのホームページを
訪ねてみませんか？

沖縄県立教育センターのホームページをご覧になりましたか。

研修会の情報やセンターの様子、研修報告書の2次情報の提供など、学校現場に役立つ情報を提供しようとの思いで少しずつですが、更新をしています。

これから内容を工夫し、肩の凝らないような楽しい話題も掲載していきたいと思っています。一度、ぜひご覧下さい。



http://www.edu-c.pref.okinawa.jp

p/

(YAHOOや沖縄県教育委員会のホームページからも検索できます)

産業教育課における生徒実習

産業技術教育センター

産業教育課では工業高校から、はじめての女性徒の生徒実習を受け入れることになりました。

ようこそ…

歓迎！！

平成 12 年，5 月 8 日沖縄工業高校生活情報科 2 年 9 組（女性徒 20 名と引率の先生 3 名）が生徒実習で本課にやってきました。写真は小橋川課長が歓迎のあいさつを述べているところです。



1. 生徒実習内容のあらまし

本課には新素材・機械加工システム，総合生産システム，バイオ生産システム，分析システム，マルチメディア・ネットワーク，通信・制御，ビジネスシステムの 7 つの研究室に各 1 名の担当の主事を配しております。各研究室の主な実習内容は以下のとおりです。

実習内容（研究室別）

(1) 新素材・機械加工システム

・ NC 工作機械加工 (CNC 旋盤・マシニングセンタ)
CAD / CAM システム

・ 溶接ロボット

・ 新素材生成加工システム

(2) 総合生産システム

・ 光造形

・ レーザー加工

・ 総合生産システム (FMS)

(3) バイオ生産システム

・ 植物バイオ

・ 動物バイオ

・ 環境制御

(4) 分析システム

・ 食品分析

(5) 通信・制御

・ 制御技術

・ 通信システム

(6) マルチメディアネットワーク

・ 画像処理

・ インターネット

・ ネットワーク技術

・ プログラミング技術

(7) ビジネスシステム

・ 電子商取引

・ テレビ会議システム

・ グループウェア

POS システム

2. 生徒実習の実績（平成 11 年度）

生徒実習の受入状況を分野別にまとめました。

表 1

11				
		11	204	
		57	471	
		19	646	
		60	649	
		147	1,970	

3. 施設見学及び体験学習

平成 11 年度は中学生・高校生の体験学習及び施設見学，一般団体等の施設見学が総計で 858 名を数えました。

その内訳は以下の通りです。

(1) 体験学習；県内の中学校 2 校 (393 名)，適応指導教室 (112 名) 合計 (505 名)

(2) 施設見学；専門高校以外では普通高校 1 校 (81 名) 県内外の一般団体など (272 名) 合計 353 名。

平成 12 年度は 6 月 30 日現在，853 名を生徒実習で受け入れました。また，施設見学及び体験学習の受入れについても大歓迎です

4. 生徒実習の風景（各研究室より）

新素材・機械加工システム



通信・制御



総合生産システム



ビジネス・システム



マルチメディアネットワーク



5. 施設見学の1コマ



平成 11 年度 県立教育センター刊行物一覧

平成 11 年度は所報をはじめとして下記の刊行物を発刊いたしました。刊行物は、6 月には各学校や関係機関へ送付してあります。是非ご利用いただきますようお願いいたします。

平成 11 年度教育センター要覧

教育センターの事業概要の紹介

所報第 38 号

研究室だより
情報処理教育課「インターネット情報」
産業教育課「バイオ・分析システム研究室」
特殊教育課「障害児の教育相談」

所報第 39 号

研究室だより
理科研修課「体験学習教室」
教科研修課「研修を終えて（研修員）」
体験学習教室だより

所報第 40 号

体験活動交流会
平成 11 年度統計資料「研修事業」
平成 11 年度後期・1 年長期研修員「研修テーマ」一覧

平成 11 年度研究協力員共同研究実践事例集

主事と学校現場の教諭による共同研究、
教科領域の実践事例集

研究紀要

各教科・各領域等に関する専門的・技術的
研究等の実践的研究

平成 11 年度研修報告収録
（前期）

長期研修員（前期・6 ヶ月）の研修成果
報告書

平成 11 年度研修報告収録
（後期）

長期研修員（後期・6 ヶ月）の研修成果
報告書

平成 11 年度研修報告収録
（1 年）

長期研修員（1 年）の研修成果報告書

平成 11 年度移動教育センター共同研究
実践事例集（第 3 集）

宮古・八重山（小学校，生活科・算数科
（中学校，数学・英語）実践集

平成 11 年度不登校児童生徒の継続的適
応指導の在り方に関する調査報告書

平成 11 年度文部省委託研究事業
沖縄県適応指導教室「てるしの」研究報告書

へき地・複式学習指導資料
（第 3 集）

同一課題の作成と自力解決を促す支援
（学習の進め方がわかる国語科 3・4 学年）

基本的な生活週間の指導の方策
-教育経営課-

アンケートをもとにした調査報告書（県内
小・中・高校を対象にしたもの）

児童生徒の学習に関する基本調査
-教科研修課-

学習意欲と学習週間に関する調査報告

平成 10・11 年度
インターネット教育利用の調査研究

すぐにできるインターネットの授業実践
事例集

平成 11 年度新規採用養護教諭
研修報告書

実施要項，研修計画，校内外研修など。

障害児の教育相談

障害児巡回就学相談活動の事業のまとめ
来所教育相談のまとめ

その他

沖縄の特殊教育（パンフ）
障害児教育相談のまとめ（パンフ）
平成 12 年度研修講座案内